

1 学校として目指す授業

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、児童一人一人が自分の考えをもち適切に表現することのできる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校 6 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、文章から引用して、相手に伝わるわかりやすい文章を書くことに課題がある。算数では、二次元の表から正確に数を読み取る問題の理解に課題がある。 ・「文章の記述（国語）」「帯グラフの読み取り（算数）」といった問題では都や全国よりも無回答率が高い。分からない問題があったときに粘り強く考えずに諦めてしまい、避けていこうとする傾向があることが窺える。 ・一人一人がしっかりと考えをもつことができるよう授業を改善していくなど、ボトムアップを図る必要がある。	・国語科、算数科の学習の大切さや有用性についての質問に対して肯定的に捉えている児童の割合が都や全国の平均に比べて高い。一方で国語や算数の勉強があまり好きではない、好きではないと回答した児童が約 4 割と多くいる。 ・自分と違う意見について考えることを楽しいと捉えられていない児童が約 2 割と多くいる。 ・話し合うことの意義を皆で考えたり、積極的に話し合う場面を多く設定したりするなど、自分の考えを表現することや学ぶこと自体の楽しさを味わうことができるよう授業を改善していく必要がある。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校 4 ～ 6 年生）

・粘り強さにおける質問に対する自己評価は全体として 4 ポイント中 3、2 ポイントと自己評価では高い傾向にある。 ・どうやったらうまくいくかを考えてから学習を始めたり、学習方法を工夫していたりするかという質問に対して、どの学年も肯定的に捉えた児童が 4 ポイント中、3、1 ポイント以上と高い傾向にある。 ・他の人に自分の考えを説明したり、分からない時質問や相談したりしながら、自分の考えを広げ深めようとする学習の進め方については、4 ポイント中 2、9 ポイントと低い傾向にある。 ・国語の学習の進め方に対する質問、「文章を読んで理解したことや考えたことなどをほかの人に説明している。」に対する回答が 4 ポイント中 2、7 ポイントと低い傾向にあった。積極的に、まずは説明したり、話し合ったりする時間を設定していく必要もある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

3 児童の学力・学習状況等の課題

・課題解決の際に他者の意見を尊重するよさや友達と協働するよさを味わっている児童が多いが、自分と違う意見を認めたり、協力して課題を解決したりすることに楽しさを見出していない児童もいる。 ・国語、算数の重要性は分かっているながらも学習の楽しさを味わえていない。 ・難しい課題に直面した際に、「自分の力で解決していこう」と粘り強く取り組むことができない、自分の自信がもてない問題を避けていこうとする傾向がある。
--

4 学校全体の授業改善の視点

○子供たち一人一人がしっかりと考えをもつことができるようになるための指導。
○子供たちが自分なりに自分の考えを表現することができるようになるための指導。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
- 評価 ○...実施した。 △...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・児童が、自分の考えをもてるように、机間指導等で個別に声をかけたり、ねらいを焦点化させたりする。 ・視覚的な手立てを効果的に活用する。 ・ペアで互いに自分の考えを伝える場を意図的に設定する。				具体物や操作活動が多く取り入れ、自分の考えをもつ時間を確保する。 「どうしてそう思ったの？」と問い返し、自分の考えを言葉で表現する場を設定する。（ノート・ICT機器など）				一人一人の児童が具体的な活動や体験を通して質の高い気づきを得、それを表現するため、UDの視点を取り入れ、「見付ける」・「比べる」・「試す」・「見通す」などの多様な学習活動を行うように授業を改善していく。		友達と関わりながら、楽しんで表現できる活動を意図的に設定する。また、演奏を聴いて、良さを言葉で伝え合う活動を取り入れる。		・アイデアを思い付き、楽しんで自分の思いを表現できるよう、個々に応じた言葉掛けを工夫したり、基本的な技能について計画的に指導をしたりする。 ・互いの作品のよさや楽しさを見付けあう時間を意図的に設定する。			様々な運動遊びに進んで取り組みの中で、工夫や考えたことを他者に伝える活動や時間を設ける。動きの見本を学級全体で確認したり、掲示物にしたりし、動きを広げられるようにする。				ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。実践的活動や体験的活動を取り入れ、道徳的諸価値について理解できるようにする。		
中学年	・児童が、自分の考えをもてるように、机間指導で個別で声をかけたり、ねらいを焦点化させたりする。 ・小グループで発表したり、話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。		ICT機器を活用し、学習活動に対する資料を児童に分かりやすく提示する。ペアやグループで話し合う活動を意図的に設定し、自身にできることを選択・判断できるよう指導する。国分寺学と関連付け、地域の人材や教材を活用し、学習内容が身近に感じられるようにする。		自力解決の時間を十分に確保し、根拠をもって考えたり、図や表、言葉など複数の方法で考えを表現したりする場を設定する。問題文の状況を理解しやすくなるように、具体物や視覚資料を活用してとらえやすくなるように環境を整える。		科学的事象について学習経験や生活経験を想起させ、予想や仮説を立てる場を設定し、自分の考えをもたせやすくする。実験結果を整理、共有する場を意図的に設定することで言語化し、知識や思考を深めていく。				演奏に対する思いや意図をもてるように、ペアや小グループで話し合う活動を意図的に設定する。また、多様な表現の良さに気付けるよう、互いの演奏を聴き合い、良さを言葉で伝え合う活動を取り入れる。		・アイデアを思い付き、進んで自分の思いを表現できるよう、考えるヒントを視覚的に提示したり、試し活動を設定したりする。 ・互いの作品のよさや面白さを見付ける時間を意図的に設定する。			様々な運動に進んで取り組みの中で自己の課題を発見し、他者と伝え合って課題を解決する活動を取り入れる。動画による手本を見せたり、自己の動きを友達と確認したりし、課題発見や課題解決を行う。				ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。資料を基に自分の考えを書いたり、意見を聞いた話し合ったりする活動を取り入れ、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てられるようにする。		
高学年	・児童が、自分の考えをもてるように、机間指導で個別に声をかける、ねらいを焦点化する、話し合いの視点を絞るなどの工夫をする。 ・小グループでICT機器を活用して情報交換をしたり、小グループで考えと比べる活動を意図的に設定する。		ICT機器を用いて情報収集したり、学習課題に対する自分の考えを発表したり見通しを立てたりする。小グループで調べたことを共有、話し合う活動を意図的に設定したり、調べる内容や順序を自身で決めさせたり、学習の進め方を選択・判断できるよう指導する。国分寺学と関連付け、地域の人材や教材を活用し、学習内容が身近に感じられるようにする。		ICTも活用しながら、自分の考えを分かりやすく表現・発信する活動を設定する。課題に対して見通しをもち、根拠を明確にして考える学習を充実させる。		科学的事象について学習経験や生活経験をもとに予想や仮説を立てさせ、そう考えた根拠を話し合わせる場を設定する。実験結果をICT、図や表などを用いて分かりやすくまとめ、結果から考えられることを自分の言葉で表現する場面を増やし、表現力を鍛えていく。				演奏に対する思いや意図をもてるように、ICT機器を活用して情報交換したり、小グループで話し合ったりする活動を意図的に設定する。また多様な表現の良さに気付けるよう、互いの演奏を聴き合い、工夫点を言葉で伝え合う活動を取り入れる。		・アイデアを思い付き、主体的に自分の思いを表現できるよう、振り返りカードの記述などから表し方の違いを例示したり、互いの工夫を見合う時間を意図的に設定したりする。		ペアやグループでの活動を取り入れ、話し合ったり教え合ったりする場を設定する。作品等は実物を見たり、タブレットで共有したりして互いの工夫した点やよかった点を伝え合ったり認め合ったりし、次の学習につなげていく。		様々な運動に進んで取り組みの中で、自己の課題を発見し、他者と伝え合って課題を解決する活動を取り入れる。また、静止画や動画をを用いて互いの考えを共有する場面を意図的に設ける。		ALTやICTを効果的に用いて表現に親しませ、ペアやグループの活動を多く設定する。また、積極的に自分の考えを発表したいと思えるよう、単元1時間目の流れを工夫する。		ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。ICT機器を活用し、自己の考えを表現したり他者と交流したりすることで、物事を多面的・多角的に考え自己の生き方について深められるようにする。	